

委員会行政視察報告書

大崎市議会 調査活動概要報告書

1. 視察概要

委員会名	総務常任委員会
委員名	只野直悦, 加川康子, 小嶋匡晴, 佐藤弘樹, 中鉢和三郎, 木内知子
日時	令和7年7月29日(火)
視察先	宮城県岩沼市
出席者 (説明者)	岩沼市議会 議長 酒井信幸氏 岩沼市議会事務局 局長補佐 高橋学氏 教育委員会教育部 部長 遠藤大輔氏 " 生涯学習課 課長 渡辺里美氏 " " 課長補佐 菅原聡氏 " " 係長 木幡祐貴氏 岩沼市総合体育館 館長 (フクシ・オーエンス共同事業体) 稲田駿氏 " 副館長 " 釧持路子氏 (株)フクシ・エンタープライズスポーツ事業本部 課長 渡部嵩真氏

2. 視察内容

視察項目	子どもたちの多様な活動環境づくりに向けた部活動改革の取組について		
視察内容	1. なぜ部活動の在り方を考えなければならないのか 【部活動の課題】 ・少子化による活動の困難大⇒種目や活動内容の限定 ・教職員の働き方改革 【推進の目的】 ・持続可能な活動を実現するため、部活動を地域クラブ活動へ展開 ・自分の時間や休日の過ごし方を生徒自身が考え選択できる環境 ・教職員のワークライフバランス		
【質疑応答】	2. 岩沼市の部活動改革の取組 ・部活動支援事業 平日の部活動を支援する(拠点型・派遣型) 文化部は休日に拠点型を実施 ・休日の部活動の地域移行(展開) 「いわぬまモデル」として、休日の中学生スポーツ教室や文化教室等を開催 ・経緯		
	年度	部活動支援事業	休日の部活動の地域移行(展開)の推進
	H26~		岩沼市部活動の在り方を考える検討会,岩沼市教職員の働き方改革推進委員会
	H30	スポーツ教室開催	岩沼市立中学校「部活動の在り方に関する方針」及び「部活動指導の手引き」策定
	H31	運動部(派遣型・拠点型)スタート	岩沼市体育施設指定管理(~R5)

R2	運動部(派遣型・拠点型), 吹奏楽部(拠点型)スタート		新型コロナウイルス感染症感染拡大
R3	運動部(派遣型・拠点型), 吹奏楽部(拠点型)	運動部モデルの検討	
R4	運動部(派遣型・拠点型), 吹奏楽部(拠点型),美術部(拠点型)スタート	運動部モデルの検討・準備,文化部モデルの検討	各種ガイドラインや検討会議提言等に基づき推進
R5	運動部(派遣型・拠点型), 吹奏楽部(拠点型),美術部(拠点型)	運動部モデルの実施・準備(陸上・卓球・バドミントン),文化部の検討・準備	岩沼市立中学校「部活動の在り方に関する方針」及び「部活動指導の手引き」第2版(R6.1)
R6	運動部(派遣型・拠点型), 吹奏楽部(拠点型),美術部(拠点型)	運動部モデルの実施・準備(サッカー・バスケット・野球),文化部の試行・修正	
R7	運動部(派遣型・拠点型), 吹奏楽部(拠点型),美術部(拠点型)	運動部モデルの実施・準備(剣道・バレーボール・ソフトテニス・ソフトボール),文化部の移行・実施	令和7年10月以降は全ての部活動が対象となる予定

3. 部活動支援事業の詳細

【運動部】

- ・ 平日の部活動を専門の外部指導者が行う。学校部活動の一環であるため、登録料はかからない。
- ・ 拠点型:総合体育館・陸上競技場を拠点とし、登録した生徒が放課後に参加する。
- ・ ソフトボールと剣道以外の運動部が対象。
- ・ 派遣型:各中学校2種目を上限とし、学校に指導者を派遣する。
- ・ 指導者は、業務委託事業者契約指導者、仙台大学、総合体育館職員等が行う。

【文化部 ※休日に開催】

- ・ 吹奏楽支援:楽器ごとに年間計20回の開催を予定。専門業者に講師派遣を依頼し実施する。
- ・ 美術支援:デジタルデザインや絵画などの分野を年に数回開催。

4. いわぬまモデル

生徒が休日に活動を継続したい場合、保護者の協力を得て、次の4つの方法から選択できる。

1. 保護者を中心に団体を組織して活動
2. 保護者を中心にスポーツ少年団を組織して活動
3. 総合体育館が開催するスポーツ教室や市が主催する文化教室に参加
4. 既存のクラブやスポーツ少年団に参加

※ これらの中から必ず選択する必要はなく、家族の時間や勉強、趣味などに時間を使うことも可能である。

5. 休日の中学生スポーツ教室

- ・委託事業者が運営し、現在6種目（陸上・バドミントン・卓球・バスケットボール・サッカー・野球）を総合体育館や市内学校施設で実施。
- ・令和7年10月からは新たに4種目（剣道・バレーボール・ソフトテニス・ソフトボール）を追加して実施予定。
- ・参加には事前登録申込とスポーツ安全保険料800円が必要。
- ・指導者はコーチバンク登録者、協会、総合体育館職員等、合計20名（令和7年3月現在）。
- ・コーチバンクでは随時登録者を募集し、面接・研修を実施している。
- ・相談窓口は総合体育館で随時開設されている。

6. 休日の部活動の段階的な地域移行（展開）

【各学校へ協力依頼】

- ・地域活動における活動場所の確保が課題であり、学校施設の柔軟な利用について協力依頼を行っている。
- ・テニスコート:活動を希望する保護者団体があった場合、学校単位で借用申請に対応する方向で協力を依頼している。
- ・体育館:吹奏楽部の保護者団体が活動する場合、活動場所として学校体育館の借用のみ可能とし、各学校に協力を依頼している。
- ・備品:活動に必要な学校開放用備品と学校備品を共有し、支援と協力を行う予定。

7. 質疑応答

質：いわぬまモデルを軸に3年くらい推進してきて、学校・指導者・教育委員会間で認識や意識のズレはなかったか。

答：何度となく共有しており何かあれば随時相談・調整を三社間で行い、指定管理受けている窓口でも相談を受けたりしていたので、なかったように認識している。

質：休日の部活動の段階的な地域移行を進めるにあたり、教職員経験者が対応・担当されているのか。

答：行っている。

質：各部活において練習場所・活動場所の重複などで、調整等は大変ではないか。

答：基本的には4つの中学校の学校開放事業で対応しているので問題は認識していない。また、休日の部活動に関しても委託業者のフクシ・オーエンス共同事業体様の方で調整しているので問題は上がっていない。

質：文化部の吹奏学部の生徒・保護者などから活動上の要望等はあるのか。

答：現在のところない。地域展開に関しては吹奏学部の保護者で構成される「親の会」が受け皿になっており、練習場所も体育館を確保しているので活動場所の要望もない。今後活動場所が学校外となったときは、楽器の移動等が問題となるかもしれない。

質：先程楽器の移動の件で今後の可能性が示されたが、音楽室等学校施設等は使えないのか。

答：平日は問題ないが、活動が休日の場合、校舎のセコムなどのセキュリティの関係上、教職員の休日出勤の可能性などもあるため厳しい。

質：吹奏楽部の練習はなぜ楽器別に行っているのか。

答：吹奏楽部の受け皿団体であるサンリツ楽器さんの講師派遣されており、その指導によるものである。

質：美術部の地域展開の様子はいかがか。

答：昨年度は休日に人数が集まらず、開催に至らなかった。

質：美術部も含めて文化系の休日の部活について議論や今後の見通しはどのような

	に捉えているのか。 答：中学生にアンケートを取ったところ、文科系の部活に関しては生徒自身が習い事のように認識しており、土日の部活動を望んでいる割合が少なかった。また、今後としては名取市や亙理町など近隣の自治体との連携も模索していきたい。 質：部活動の保護者で構成される受け皿団体構成される際の苦労はどうだったか。 答：全国的に「部活動の地域展開」は話題になっており、保護者皆様が理解頂いていたので、非常に協力的だった。また、何か課題や問題は随時窓口で相談を行った。 質：岩沼市として指導者の確保はどのように行っているのか。 答：岩沼市体育協会に所属している指導者に声掛けして頂き、土日出られる方に指導者として確保した。また、㈱フクシ・エンタープライズ様と連携しながら調整・確保している。 質：㈱フクシ・エンタープライズ様として指導者の確保はどのように行っているのか。 答：指導者の確保する上で岩沼市と仙台大学様との包括連携は大きく、確保の協力頂いている。今後は東北福祉大様などとの連携を模索していきたい。 質：文化系部活の指導者の確保はどのように行っているのか。 答：市の広報などで周知したり、人伝いで繋がり、現状確保している。吹奏楽についてはサンリツ楽器様から講師を派遣して頂いたり、地元の引退された教員の先生などにご協力頂いている。 質：運動系・文科系問わず、コーチや講師への謝礼や報酬は支払っているのか。 答：運動系・文科系問わず支払っている。 質：岩沼市様の地域展開にかかわる予算規模はどのくらいか。 答：1千数百万規模。 質：財源はどの財源を使っているか。ふるさと納税等を活用しているのか。 答：一般財源を充てている。 質：資料で示されている4つの「いわぬまモデル」の内、どの体系が割合として一番多いのか。 答：（１）と（２）は多くなく、大きくは（３）（４）モデルに集中している。 質：コーチバンクの活用でどの程度の人数が登録されているのか。また、部活によって偏りはしないのか。 答：卓球が4名、バトミントン5名、陸上4名等々、個人種目により集中しており、団体に関してはスポ少や親の会が連携している。 質：現時点で岩沼市様において、部活動の地域展開の対象生徒数と部活を教えて欲しい。 答：対象生徒数は786名、約50部がその対象となる。
考 察 【所感・課題・提言等】	1. 部活動改革の必要性 本市においても少子化の進行により、生徒数の減少に伴う部員不足や活動種目の限定が顕著となっている。また、教職員の働き方改革の観点からも、従来の学校依存型の部活動の在り方は持続可能性に課題を抱えている。こうした状況は、岩沼市が取組を進めるに至った背景と共通するものであり、本市においても抜本的な見直しが必要である。 2. 岩沼市「いわぬまモデル」の特徴 岩沼市における部活動改革は、段階的な地域移行を基本に据え、以下の点が特徴的である。 ・ 段階的移行の推進 休日の活動から順次地域クラブ活動へ移行し、学校・教育委員会・受託事業者が連携して調整を行っている。

- ・多様な受け皿の提示

保護者会，スポーツ少年団，総合体育館主催教室，既存クラブなど複数の選択肢を示し，生徒・保護者が各自の状況に応じて選択できる仕組みを整備している。

- ・外部人材の積極的活用

大学や専門事業者との連携により，専門的な知識・技能を持つ指導者を確保している。

- ・財源の確保

一般財源を中心に運営しており，年間数千万円規模の予算を投入している。

3. 本市における課題（考察）

岩沼市の事例を踏まえると，本市における特有の課題は次の点にあるのではないかな。

- ・広域性と地域差

本市は広域合併市であり，旧町単位で生徒数や施設環境に大きな差がある。岩沼市のような一体的モデルの適用は困難であり，地域ごとの実情に即した対応が求められるのではないかな。

- ・受け皿団体の形成

保護者団体やスポーツ少年団が存在する一方，過疎地域では担い手不足が顕著である。自治体による支援や調整機能の強化が不可欠ではないかな。

- ・文化部活動の展開

吹奏楽・美術など文化系部活動の地域移行については活動希望に差が大きい。地域文化団体やNPOとの協働，近隣自治体との広域連携が必要ではないかな。

- ・財源の持続性

岩沼市同様に多額の予算を要するため，国・県の支援策の活用や，ふるさと納税・企業協賛など多様な財源確保の工夫が求められるのではないかな。

- ・取組の方向性

本市においても既に見直しの取組を進めているところであり，今後は岩沼市をはじめとする他自治体の先進事例を参考にしつつ，本市の地域事情に応じた地域移行の在り方やガイドラインを策定し，子どもたちの体験活動の機会を確保・提供していく必要があるのではないかな。

4. まとめ（考察）

岩沼市の「いわぬまモデル」は，部活動改革の先進事例として本市に多くの示唆を与えるものと考えることができる。ただし，本市は地理的広さや地域差といった固有の条件を抱えており，画一的な適用は困難ではないかな。今後は，地域資源の活用，人材の仕組みづくり，財源確保の工夫を行いながら，地域に根差した持続可能な形を模索していくことが重要だと考える。

以 上